

登録コード:MH317300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	装具学【20M以降】 Orthotics		
担当教員	青木 薫 百瀬 公人・横川 吉晴・務臺 均・西澤 公美・北川 孝		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻/3年 後期 火曜・1時限 火曜・2時限		
単位数、講義室	2単位	保健学科131講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	装具が必要な病態、装具の種類、作製の過程、装具装着のための評価・訓練を理解する。
	MH25カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・理学		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。 ≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	装具が必要な病態、装具の種類、作製の過程、装具装着のための評価・訓練を理解する。 装具・車いすなどが必要となる疾患、病態を学習することにより、障害に対して科学的にアプローチして対応する能力が身についている。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	上肢装具、下肢装具、体幹装具、車椅子などの基礎と臨床を解説します。後半には、補装具基礎論および本授業で習得した知識を基に実際の義肢・装具作製現場において実習を行います。 本授業は、2年次に学んだ「整形外科学」、「精神医学」、「小児科学」、「臨床神経学」の知識を前提とし、3年次に学ぶ「義肢学」、「運動疾患の理学療法」、「スポーツと理学療法」の内容と相補的に学んでいくことになります。そして、本授業の内容は、3年次にの臨床基礎実習、4年時の臨床実習における重要な基礎知識となります。 本授業は担当教員の医療機関における整形外科医、リハビリテーション科医、理学療法士、作業療法士としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	第1・2回 (9月29日) 装具の概要、処方、交付体系、下肢装具総論 (青木) 第3・4回 (10月6日) 短下肢装具、長下肢装具 (百瀬) 第5・6回 (10月13日) 膝装具、股装具、免荷装具 (百瀬) 第7・8回 (10月20日) 対麻痺用下肢装具、靴型装具 (横川) 第9・10回 (10月27日) 中間テスト、鹿教湯病院実習のオリエンテーション (青木) 第11・12回 (11月10日) 鹿教湯病院での義肢・装具実習 (青木) 第13・14回 (11月17日) 上肢装具 (務台) 第15・16回 (11月24日) 頸椎・体幹装具 (北川) 第17・18回 (12月1日) 車椅子 (北川) 第19・20回 (12月8日) 歩行補助具 (北川) 第21・22回 (12月15日) 小児の装具 (西澤) 第23・24回 (12月22日) 期末テスト (青木) 第25・26回 (1月5日) 装具演習(グループワーク) (青木) 第27・28回 (1月12日) ギプス実習・具演習(グループワーク)・レポート作成 (青木) 第29・30回 (1月19日) 装具演習グループ発表会、授業アンケート (青木) 第31・32回 (1月26日) レポート作成 (青木)		
授業の進め方	スライド、配布資料を用いて講義を行います。ギプス巻きや鹿教湯病院で装具作成の現場を見学する実習を行います。講義の内容についてレポート作成を行います。		
テキスト、教材、参考書	教科書 義肢装具のチェックポイント 医学書院 参考書 装具学 医歯薬出版		
成績評価の方法	提出レポート・試験に基づいて、総合的に成績を評価します。 総合的評価の配分は、レポート・グループ課題20点、中間・期末試験80点とし、総計の60点以上の得点を合格とする。 レポート、期末試験では「装具装着が必要な疾患・病態を理解しているか」、「装具の種類、装着・適合判定を理解しているか」、「装具作製の過程を理解しているか」を確認します。		
成績評価の基準	レポート・試験の総計により、成績評価の判定基準は以下の通りとする。 90-100点：秀、80-89点：優、70-79点：良、60-69点：可		

成績評価の基準	なお、これらの採点の基準は、達成目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における、最低限の解答内容であれば「水準にある(可)」，やや詳細な解答内容であれば「やや上にある(良)」，十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある(優)」，授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している(秀)」と判定する。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 授業終了時に、次回までに学習しておく内容についてを説明します。 【事後学習について】 授業中に、これまでの授業で学習した内容について質問をするので、自分の言葉で端的にわかりやすく説明できるように事後学習してください。 本授業の単位修得には、90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とする。 授業時間60時間（4時間×15回）＋事前・事後学習時間30時間（2時間×15回）＝90時間 ※以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組むこと。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問，相談については講義時間中には各教員が個別に質問に対応します。 講義時間以外の質問への対応：青木 薫 kin29men@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡） 保健学科南校舎1階 青木研究室